マイナス金利と闘う駐妻日記 12

女性ファンドマネージャー

　プロンポン周辺でかなり目立っている某ラグジュアリーコンドミニアムは、「Everyone deserves to be a Princess（女の子は誰だってお姫様になれる）」をキャッチコピーにプロモーションを繰り広げているようです。これを見て、タイらしいキャッチコピーだなぁ、と思いました。
　タイ人女性って、「お姫様気質」だと思いませんか？何歳になっても、お姫様のようなレースやリボンをあしらったファッションや、キラキラした飾りが大好きです。日本人なら二十歳を超えたらアウトといわれるようなアクセサリーだってお構いなしです。そして、タイ人男性は、荷物を持ったり、料理を取り分けたり、送り迎えをしたり、とにかく優しく尽くします。良い意味でも悪い意味でも、感情の起伏が激しいタイ人女性をなだめる姿もまさにお姫様と王子様（召使？）です。日本にも、「カカア天下」という家庭がありますが、「カカア」は「お姫様」という感じではないですよね。。

　タイ女性の社会進出

　「お姫様」気質といえど、タイ人女性の社会進出度は、日本人女性と比べてはるかに高く、国際会計事務所グラントソントンの２０１５年の調査によると、管理職に占める女性の割合は３７％で世界トップ５。一方日本は７％で世界最下位。旦那さんよりも奥さんの方が収入が高い家庭もたくさんあります。外ではバリバリ働いて、家に帰ったらお姫様、という感じなのでしょうか。前号でも触れましたが、日本女性の社会進出は、深刻な問題のようです。

　希少な女性ファンドマネジャー

　そんな中、先日の日経新聞で、日本で、数少ない女性ファンドマネジャーとして活躍する方が特集されていました。投資信託や年金の資産運用の専門家であるファンドマネジャーは、世界的に見ても、女性の進出が遅れている分野です。
　イギリスの金融情報会社シティワイヤによると、世界のファンドマネジャーのうち、女性は約１割だそうです。日本の医師や弁護士の女性比率が２割程度だそうですので、かなり少ないと言えます。

　ファンドマネジャーとは

　ファンドマネジャーとは、ファンド＝資金、を、マネジャー＝管理、する人のことです。
　投資信託は、多くの投資家（出資者）を募ってお金を集め、ひとつのまとまったファンドとし、運用会社が様々な手法で投資し、収益を上げ、利益が

出れば、投資金額に応じて、投資家に利益が再配分されます。運用会社で、このファンドを運用する人がファンドマネジャーです。
　投資信託の最大のメリットのひとつは、運用をプロに任せることができる、という点だと思います。例えば、株式投資は、世界情勢や会社に関する知識など、運用に関するそれなりの知識が必要となります。一方、投資信託は、ファンドマネジャーという金融のプロが運用します。ファンドマネジャーは、一般的に、アナリストから始まり、金融機関で世界中の優秀な金融マンとの競争を経て、運用成績が悪ければ解雇されるプレッシャーの下、経験と実績を積んできたスペシャリストです。

　じわじわ増える女性ファンド

　１０年前はほぼゼロだった女性ファンドマネージャー。まだまだ他の職種に比べて女性の割合は少ないといえども、金融業界に少しずつ増えている中で、大きな実績を上げている女性ファンドマネジャーもいます。また、チームの半分以上が女性のファンドを立ち上げた会社もあります。
　こういったファンドは、「女性ファンド」というカテゴリーで売り出されていることもあります。

　安定志向の女性ファンド

　ファンドの運用成績はそのファンドマネージャーの能力で決まります。アメリカのいくつかのコンサルティング会社が行った調査によると、女性ファンドマネジャーが運用するファンドは、男性ファンドマネジャーのファンドより運用成績が良かった、というものもあります。
　その理由のひとつに、女性ファンドマネージャーは大きなリスクはとらず、ファンドの安定運用に努める傾向が強かったため、大きな損を抱えることがなく、相対的に高いリターンをあげることができたことがあげられています。
　また、女性ファンドマネジャーは、コミュニケーション能力が高い人が多く、普通は表に出ないファンドマネジャーであっても、レポートを発表したり、投資家向けの説明会に顔を出したり、運用方針を説明したり、投資家に親近感と信頼感を持たせるようなマネジャーが多いようです。